



地域で多様な個性の子どもたちを育くむ (発達障害児支援のための地域連携体制の構築)

保健福祉学部 作業療法学科
教授 林優子 (はやしゆうこ)

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 2502号室
Tel 0848-60-1120 (代表) Fax 0848-60-1231
E-mail YHAYASI@pu-hiroshima.ac.jp
* @は半角小文字に置き換えて下さい



専門分野： 小児神経学、小児リハビリテーション医学、
発達障害
キーワード： 発達障害の支援、療育、リハビリテーション

● 主な取り組み・活動

私は小児神経専門医として、療育施設や園・学校から紹介された多くの発達障害の子どもたちの診療と支援を行なっています。家族が子どもの特徴を前向きに理解し、地域の機関と協力して子どもが育つ環境が整えば、一時期にトラブルがあっても改善することが可能で子どもは確実に発達していきます。一方、困難を理解してもらえず支援に至らない子どもも多く潜在しています。

2009年3月三原市発達障害者支援検討委員会において、医療、保健、福祉、教育、労働に関する関係機関が連携し、乳幼児期から成人期までの発達障害者に対する支援のあり方について提言しました。そこでは、発達障害児に対する基本的視点(①将来の自立に向けた発達支援②ライフステージに応じた一貫した支援③家族を含めた支援④身近な地域における支援)を実現していくためには、行政関係者や専門職種のみで行われるものではなく地域全体の協力が必要であることと、地域のすべての子どもたちに対する子育て支援の充実が発達に課題のある子どもたちへの支援につながることを確認し、「気づく(早期の理解)」「つなげる(相談・連携)」「ささえる(保護者も含めた包括的な支援)」の3つの柱で地域の子育て支援ネットワークを構築していくこととなりました。現在も連携して支援整備を進めています。

● 今後の目標・抱負

丈夫な子どもいれば、病気にかかりやすい子どもいます。育てやすい子どもいれば、育てにくい子どもい

ます。いろいろな個性の子どもとその家族が住んでよかった、今度は自分たちが他の人たちを応援したいと思える子育て支援の先進地域になるよう三原市と協働し、さらに、その支援の理念を近隣～他の地域の関連機関とも共有し、支援体制整備の輪を広げていきたいと考えます。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

- ①子どもに関わる多くの地域の支援者が親子のニーズを広くキャッチし、早期に支援に繋げることができる連携体制の拡充
- ②親子が安心して気楽に相談できる相談機能(子育て中の家族が孤立しないように)の充実
- ③専門的な診断や支援が必要な子どもが適切な発達支援を受け、途切れることなく安心して成長するための地域の専門機関の連携体制の強化
- ④基盤の脆弱な家庭に対する地域資源への支援

● これまでの連携事例・実績

- ①県立広島大学保健福祉学部附属診療センター発達外来での診療(年間実人数850名)
診療内容;発達相談、診断、治療・リハビリテーション、関係者とのカンファレンス
- ②県立広島大学保健福祉学部地域連携センター子育て支援部会代表
- ③三原市地域自立支援協議会児童支援部会専門委員 市内の児童発達支援事業・放課後等デイサービスへの専門支援
- ④三原市就学指導委員会委員
- ⑤三原市保健福祉課発達相談担当医
- ⑥広島県小児科医会子どもの心委員会委員
- ⑦広島県発達障害研究会幹事
- ⑧日本知的障害者福祉協会人材育成専門委員
- ⑨シティカレッジ、教員免許状更新講習、就学説明会などの講習会の企画・開催・講師